

標 題 : Olive oil, diet and colorectal cancer: an ecological study and a hypothesis
オリーブ油、食事および結直腸癌：生態学的研究および仮説

著 者 : M. Stoneham, et al. (英国 オックスフォード大学 公衆衛生学部)

掲 載 誌 : J. Epidemiol. Community Health 54: 756-760 (2000)

要 旨 :

研究目的 : 結直腸癌(CRC)は多くの西側諸国で一般的な癌で、その一部は食事要因によって引起されるであろう。

南欧諸国は他の多くの西側諸国よりも結直腸癌の発症率が低い。

オリーブ油はラットで胆汁酸塩の分泌パターンに影響するので、それが結直腸癌の発症に影響するのだろうと、主張された。

この研究の目的は、特にオリーブ油に関する食事要因の国別の水準と、結直腸癌は勝率の国別の違いを比較することである。

計 画 : 既存の国政データベースを用いる生態学的な研究。

結直腸癌の発症率、食品供給データ、およびオリーブ油摂取データを発表された情報源から抽出し、組合せて解析して、結直腸癌と 10 件の食事要因との間の相関を計算した。

次に段階的な重回帰を用いて、関連を探索した。

設 定 : 4大陸の 28 カ国。

主な結果 : 結直腸癌発症率の国の間の変動の 76%は、3つの重要な食事要因〔肉、魚およびオリーブ油〕の組合せによって説明された。

肉および魚は結直腸癌発症率と正の関連をし、オリーブ油は負の関連をした。

結 論 : オリーブ油は結直腸癌の発症に対して予防作用を有すると思われる。

提案する仮説は「オリーブ油が結腸で二次胆汁酸パターンに影響し、次に結腸細胞のポリアミン代謝に影響することで、正常な粘膜から腺腫および癌への進行を抑制すると思われる」である。
